

## 将来を考えよう

明けましておめでとうございます。今年は寅年、昔から「雲は龍に従い、風は虎に従う」（易経）と申します。風雲を呼ぶ年です。皆で力を合わせ、良い1年にいたしましょう。宜しく申し上げます。

皆さんは年末年始で、ご家族と共に英気を養われたことと思います。お陰様で私も休養をとり、今年への抱負を新たにしました。

昨年はコロナの中で明け暮れた1年でした。いったんは下火になったかと思いましたが、今度はオミクロン株が広がりだしています。予断を許さない状況ですから、どうか皆さん、気を緩めることなくお過ごし頂きたいと思います。

昨年のも正月にも申し上げたことですが、どんなに悪いことでも、また反対にどんなに良いことでも、それがピークに達した時に変化を始めるものです。悪い状態が続いても悲観せずに希望を持って次に備え、絶好調でも驕り高ぶらずに謙虚であることが必要です。そして、「今ココ」という日常を精一杯に悔いなく過ごすと共に、常に将来を考えて対策を持つことが大事だと私は思います。

皆さんは、尾崎罌堂という人をご存知と思います。かつて国会議員や東京市長を務め、アメリカの首都ワシントンのポトマック河畔に日本の桜を贈った人です。季節になるとそれは大変美しいもので、ご覧になった方もいらっしゃるでしょう。その桜は興津の産と言われております。さて今日は、その罌堂さんが残した言葉をご紹介します。永田町の憲政記念館の玄関前に罌堂の像がありますが、その台座に次の言葉が飾られています。

“人生の本舞台は常に将来に在り”

過去は今日のための準備、人生は今日と今日から始まる将来にある、という心意気を示しています。毎日を大事にしながら、「将来」すな

わち将に來たるべき明日に向かい計画をもって進むことです。來たらんとする将来をしっかりと考えると今の憂いはなくなります。まさに、「遠き慮りあれば、近き憂いなし」（論語）です。近未来とはいえ、丁度扇子を広げたかのように先の可能性は広がります。従って先々の変化を100%予測できなくても、出来るだけ想定外を減らすように努めることが大事です。今年には将来を考える年にしていきたいと思えます。

もちろん、経営の原点は変わりません。いつも申し上げているとおり、次の三点です。その上で環境の変化にどう対応するか、それが将来を考えることなのです。

- 1, 経営理念「お客様とともに歩む」の堅持
- 2, 現場主義の徹底と健全経営の推進
- 3, センターの一体化促進

まずは、この1年間を振り返って見ましょう。十大ニュースです。すでにお知らせ済みなので、要点のみを申し上げます。

## 《十大ニュース》

- 1、 未来への挑戦（二つの全国初が実現！）
  - ・ 伊豆中央道・修善寺道路にETC Xを導入
  - ・ 住宅高台移転事業に参画し、沼津市内浦重須地区で実現
- 2、 地域貢献・お客様サービスの充実
  - ・ 熱海伊豆山地区土石流災害の発生に対応し、ただちに伊豆スカイラインの無料開放、被災者に県営住宅を提供
  - ・ 東京2020オリ・パラに協力し、伊豆中央道・修善寺道路にETC X導入、伊豆スカイラインの無料化など実施
  - ・ 「高齢者テレフォン安心サービス」の登録者が300人を突破、「お元気ですかコール」を市町営住宅にも拡大
- 3、 健全経営の推進（R2年度決算）
  - ・ 黒字を（土地）は3年連続、（住宅）は18期連続計上
  - ・ インフラ技術支援担当は、過去最高の65件を受託
- 4、 計画的な事業推進
  - ・ 伊豆市より「新中学校整備事業」の用地交渉事務を受託

- ・ スカイラインの新グランドデザイン後期5カ年計画の推進
  - ・ 新たに御殿場市営住宅の管理開始
- 5, 社会・経済の変化（リスク）への対応
- ・ スカイポート亀石の営業閉鎖（3／末）に伴う対応
  - ・ Dランク債権を10件から6件に減少
  - ・ 全ての公用車にドライブレコーダーを設置
- 6, 新型コロナウイルス感染症対策
- ・ お客さまや職員の安心・安全の確保と感染対策の徹底
- 7, 働き方改革の推進
- ・ 在宅勤務推進のため、マジックコネクトを導入
  - ・ 同一労働・同一賃金の要請に応え、嘱託員及び臨時職員の給与および休暇の見直し
- 8, 業務の効率化・事務改善
- ・ リモート会議システムの導入と積極活用
  - ・ 東部管理センターでのチャットワーク（社内SNS）導入
  - ・ スマホによる入居説明会など外国人入居者支援策の実施
- 9, 執行体制の整備
- ・ 専務・常務理事が新任、新執行体制がスタート
  - ・ デジタル化推進室を組織横断で設置し、具現化
  - ・ 道路公社で2名の技術職員採用
- 10, 戦略的な広報展開
- ・ 道路公社フォトコンテストをスタート
  - ・ 職員の名札を新デザイン化

コロナの影響にもかかわらず、事業計画が着実に実行されてきたことは、皆様のご尽力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

昨年私が感銘を受けたのは、業務功績や一人一挑戦表彰を決める際に、候補となった案件でした。現場に密着して問題点を発見し、改善に結びつけたものばかりで、すべて現場に立って考え行動する「現場主義」の成果です。現場主義に徹すれば、「現場力」問題の解決能力が高まります。それによって仕事の質が上がり、お客様から喜んで頂けるようになるのです。冒頭、経営の原点を三つ挙げましたが、お互いに深く関係し合っていることが良く分かります。

また、経営の健全化については、決算の健全性、資産の健全性、信

用の健全性の3つを申し上げていますが、この中でも一番大切なのは信用です。信用があれば、一時の金銭的損失は挽回できます。信用を失ってはだめです。信用こそが健全経営のもとになっています。

本年は、変わらない経営の原点に立ち、環境の変化には柔軟に対応しながら事業計画を実行していく、そんな年にしたいと思います。近い将来を見ただけでも、避けて通れない課題が次のようにいくつかあります。

- 1, 各部門に共通する仕事量の安定的確保
- 2, (道路)では伊豆中央道・修善寺道路無料化後の対応
- 3, (住宅)では市町営住宅の管理受託の拡大
- 4, 新しい働き方の定着(逆戻りはできません!)
- 5, センターを横断する協力体制づくり

長い将来を見極めるのは容易ではありませんが、成りゆきや誰かの判断に任せるのでは将来はありません。これからをどうするかは、可能性の追求もリスクへの対応も私たち自身が決めるのです。その上で、関係先の協力を得るよう務めることが必要です。そのプロセスで良いアイデアも生まれてくるでしょう。とりわけ、これからを担う方々に徹底して考えて頂きたいと思います。私が10年言い続けてきたことを、特に幹部の皆さんは聞き流さないでください。その気概があれば、必ずや未来は拓けていくと私は確信しています。昔から言われている「天は自ら助くる者を助く」と言うとおりです。一生懸命やっていたら協力してくれる人が現れます。自らやる気のない者に、誰が手助けをするのでしょうか。まずは、自分たちがどうあるかということ自分たちで考えてください。

締めくくりはいつも同じで恐縮ですが、ご家族共々、身心の健康に留意して下さい。そして、悔いのない一年といたしましょう。

明るく、元気で、仲よく、厳しく！

以上